令和８年１１月２日

保護者の皆様

江東区立越中島小学校
校長　　大木　直之

校内研究通信「かもめっ子」

【第３回】試行錯誤と葛藤のドラマ
～１年目の挑戦から見えてきたもの～

日頃より本校の教育活動を温かく支えていただき、心より感謝申し上げます。

「こどもが主人公！」の学びを目指してスタートした本校の校内研究ですが、最初からすべてが順風満帆だったわけではありません。これまでの先生が手厚く導く授業から脱却し、こどもに学びを委ねようとする中で、先生たちは何度も悩み、試行錯誤を繰り返してきました。

今回は、昨年度（研究１年目）の取り組みと、そこから見えてきた学びのリアルなドラマおよびご家庭でも大切にしたい見守りの視点についてご紹介いたします。

１　教室で生まれたこどもたちの探究のドラマ

昨年度、各学年ではこどもの問いや目的意識を大切にした様々な授業が展開されました。

○低学年（１・２年）　五感で感じ、自分で選んで進める学び

１年（生活科）　校庭の特大の落ち葉プールで、全身で秋と触れ合い、「カサカサする！」「こっちはツルツルだ！」と遊びの中から自然と比較や発見を深めました。

２年（生活科）　動くおもちゃ作りで「材料」「修理」「試す」コーナーを設置。こどもたちは自分の進行具合に合わせて行き来し、試行錯誤を重ねました。

○中学年（３・４年）　根拠をもって確かめ、協働する学び

３年（社会科）　スーパーマーケット見学前に仮説を立て、働く人のインタビューや写真と照らし合わせて工夫を調べました。

４年（理科）　温まり方の実験で、班ごとに結果を比べ合い、「どの班も同じ結果になった（再現性）」という科学的な事実にみんなで迫りました。

○高学年（５・６年）　クラウドを活用し、自律的に未来を追究する学び

５年（総合）　お米の収穫体験を出発点に、クラウドでクラス全員の学習計画や振り返りを共有。友達の考えをヒントに、米の未来を考えました。

６年（総合）　「SDGs と未来の自分」をテーマに、プロの言葉や動画から自分の将来や生き方を多角的に模索しました。

２　うまくいかなかった経験から得た先生たちの大きな気付き

こどもたちがイキイキと活動する一方で、授業後の協議会や講師の先生（早稲田大学・大村龍太郎准教授）との議論の中で、先生たちは大事な壁にぶつかりました。

気付き①　手厚く準備しすぎると、こどもの考える余白が奪われる

先生が良かれと思って細かなプリントや膨大な資料を用意しすぎると、こどもは指示通り動くだけになってしまいます。先回りしてサポートしすぎず、こどもの試行錯誤の余白を残す委ねる勇気の大切さを学びました。

気付き②　自由にさせる（放任）だけでは、学びが深くならない

こども任せにするだけでは表面的な解決で終わってしまいます。こどもが「なぜ？」と立ち止まった時に、適切な問いを投げかけて思考を深める伴走者としての先生の役割が不可欠だと再確認しました。

３　こどもの自律を育む見守りの余白

「先回りしすぎず、試行錯誤の余白を残す」「困った時は一緒に考える」という先生たちの気付きは、ご家庭での子育てや学習・日常の関わり方にもそのままつながる大切なポイントです。

保護者の皆様も、我が子を思うあまり「ついつい口出ししてしまう」「先回りしてやってあげてしまう」ということはありませんか？

〇先回りを一歩ひいて見守る余白をつくる

こどもが悩んだり時間がかかったりしている時、すぐに答えややり方を教えるのではなく、「どうすればうまくいくかな？」と少し見守る時間（余白）をつくってみてください。

〇「失敗＝ダメ」ではなく大切な学びのデータと捉える

宿題や片付け、準備などで失敗してしまった時も、「だから言ったでしょ」ではなく「いい経験になったね！次はどうしてみる？」と声を掛けることで、こどもは失敗を恐れずチャレンジできるようになります。

「失敗しても家には絶対的な安心感がある」という土台があってこそ、こどもたちは学校でも一歩踏み出し、自律して学びを動かすことができるようになります。

次回は、【第４回　数字と姿で見えてきたかもめっ子の成長～安心・安全な学級の土台～】として、全国学力・学習状況調査のデータから見えてきた本校の成果についてお伝えいたします。

【全５回 連載予定】

第１回　なぜ今、越中島小の先生たちは授業を変えているのか？

第２回　学校で広がっている新しい学びの形
第３回（今回）試行錯誤と葛藤のドラマ
第４回　数字と姿で見えてきたかもめっ子の成長
第５回　１１月２０日研究発表会を迎えるにあたって